

琴 土佐一絃琴始祖 門田宇平没後150年墓前祭
今の音を後世に伝える

9月29日(日)香我美町山北出身の土佐藩士で、土佐に一絃琴を広めた門田宇平の没後150年を記念して、宇平の子孫と一絃琴を伝承する香我美町一絃琴の会の会員が高知市福井町で墓前祭を行いました。宇平の6代目となる南国市在住の浜田康さんから「偲ぶ言葉」を頂き、引き続き夏休みに「体験教室」に参加した中学生と、宇平が愛用した琴を使用して、一絃琴の会員が墓前で演奏を行いました。150年を経ても宇平の伝えた琴の音が伝承されている事を墓前に報告し、参加者は音色に耳を傾けていました。



▲門田宇平の墓前で一絃琴を演奏する参加者



▲各町ごとに出来上がる料理もまったく違ってきます

震 香南市女性防火クラブ連合会炊き出し訓練
震災時、なにが調理できるか

10月10日(木)夜須福祉センターで香南市女性防火クラブ連合会による炊き出し訓練が行われました。

今回の訓練は、どのような料理を作ることができるかわからない震災後を想定。事前にクラブ員同士でメニューをどうするか相談せず、当日一人ひとりが食材を持ち寄って「その時あるもの」で調理するという災害時に考えられる実践方式で行われました。

各町ごとに班を作り、それぞれが持ち寄った食材から何が作れるかを即座に考え、手際よく分担し、工夫した料理ができあがっていました。



大 ICEBOX ジュニアスポーツ教室in高知
林素子さんにバレーボールを習おう

10月12日(土)香我美トレーニングセンターで元バレーボール日本代表の大林素子さんを迎えてのバレーボール教室が開催されました。これは香我美中学校の生徒が氷菓メーカーの商品を食べて募集するバレーボール教室に応募したところ、見事当選し今回の教室が開催されることに。参加した地元の小中学生は、大林さんから「もっと膝を曲げて」、「ウォーミングアップもどこの筋肉を使っているか意識して」と直接アドバイスをを受け、真剣な眼差しで練習を行っていました。最後に「皆さんの中から7年後のオリンピックに出ることを楽しみにしています」とエールが送られました。



▲レシーブの姿勢を指導する大林素子さん



オ あぐりのさと15周年感謝祭
オープンして15年経ちました

10月19日(土)・20日(日)香我美町西川地区の直販所「あぐりのさと」で15周年感謝祭が開催されました。あいにくの天気でしたが、イベント開始とともに、市内外から大勢が来店。あめごの塩焼きや、以前から交流を続けている三原村からどぶろく、あぐりのさと特製のみかん餅やブルーベリー餅などが販売されました。杵と臼を使った昔ながらの餅つきは誰でも参加でき、子ども達が保護者やスタッフの手を借り餅をつきました。山間に笑い声が響きわたり、連日とも大盛況でした。



▲重いけど…、べったんべったん♪

Konan People's Seminar

～心豊かにより楽しく生きがいを感じる人生を～

平成25年度香南市市民大学

第8回 香南いきいきセミナー

9月26日(木)

“イクメン” “イクジイ” が
社会を変える!
～家族が笑顔になる秘訣～

NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表

安藤 哲也
(あんど う てつや)

父親の子育て・母親の社会参加を応援し、笑っている父親を増やすことを目的に、全国各地を飛び回る安藤さん。父親が家事・育児に参加することが、家族そしてこれからの日本社会にとっていかに大切かを、自身の実体験を踏まえ、ユーモアたっぷりに話していただきました。また、これまでの調査や活動から「ほとんどの女性は第一子出産を機に夫への愛情が低下するが、出産直後から乳幼児期にかけて夫が家事・育児に積極的に参加すると愛情が回復する」という調査結果を紹介し、それが第二子妊娠・出産への意欲へと繋がり、出生率が上がって、日本の少子化の歯止めにつながる日本国の将来を見据えて話す安藤さんの言葉には説得力があり、約300人の受講者を引きつけていました。



10月9日(水)

池上彰・増田ユリヤトークショー

ジャーナリスト

池上 彰
(いけがみ あきら)

ジャーナリスト

増田ユリヤ
(ますだ ゆりや)

テレビなどで社会情勢や経済を分かりやすく解説されている池上さんと、世界各国の教育現場に自ら足を運ばれて取材されている増田さん。この日は「日本と世界から教育を考える」をテーマに、トークショー形式で開催されました。国際学力調査では日本は上位にいますが、選択問題以外は点数が低く、「日本人は正しい選択はできるが、自分の言葉で論理的に説明する力が弱くなっている」。また、世界一と名高いフィンランドでの教育現場を例に、日本との差を説明してくれました。日本人は「まずダメなところを探す癖があるが、探すなら『良いところ』をみつけるようになると、もっと良くなる」と、お二人独特の雰囲気由来で来場者に語りかけていました。



10月17日(木)

キッチンからはじまる
家族の絆

料理研究家

コウケンテツ

食の大切さ、一日三食を手作りで食べる大切さを自分の経験から語ってくれたコウケンテツさん。最近の若者が偏った食事になっていることに警笛を鳴らし「インスタントや好きなものしか食べない習慣が続くと体に毒素が蓄積されることがある。それが将来病気として出てきたり、子どもに悪い体質が遺伝してしまったりする。悪い食事をとったら将来どのような影響が出てくるのかを知らないから食べることに興味がない」と、説明してくれました。

また、スリランカやラオスなど、海外の食文化や食で地域の繋がりが残っていることや、子どもが料理を作ることが達成感や満足感だけでなく責任感を養うことができることをユーモアたっぷりに紹介し、にぎやかに講演の幕が閉じました。

